

家庭画報

10 OCTOBER
1997

秋を贅沢に過ごす

心なごむ紅葉の宿10選

木の香り、木の温もりを感じる

フインランドの美しい暮らし

さつまいもと栗のご馳走鉢

オートクチュールの手仕事をパリに訪ねて

家庭画報大賞入賞者4人の「わが家のガーデンパーティーへようこそ」

十二代・中村宗哲——女性塗師の美の世界

美術館の「快適空間」でくつろぐ



フィンランドデザイン界をリードする シモ・ヘックラの心地よい木の家具

三〇年間ヘルシンキでデザイン活動をしてきたシモ・ヘックラは、昨年、出身地・ユバスキュラに戻った。常に新しいデザインに果敢に挑戦することによって評価を得る氏の自邸を訪ね、デザイン論を伺う。「自分の時間の約半分は、新しい試みのために使っている。製品になるかどうかは一部分のこと。デザイン

は、実用性が一番大事だと思う。形からデザインに入ったことは一度もない。できるだけ単純化することを心がけ、椅子なら座りやすさを重視する。材料は、木が最も好きだ。なぜならフィンランド人にとって木は、一番自然な材料なのだから。自国の木を使う伝統に対し、私は強い尊敬の念を持っている」。



右、自宅に隣接する広場に自作の椅子を並べる。残念ながら家具は日本では取り扱われていないという。木を生かした座り心地のいい椅子は、ぜひ日本でも見たいものだ。下三点・自邸と庭先で見つけた椅子。下右は試作品。

SIMO HEIKKILÄ DESIGNER I SISUSTUSARKKITEHTI SIO STUDIO : PITKÄKATU 35
40700 JYVÄSKYLÄ FINLAND ☎358-014-645888



右・ヘルシンキ郊外の自宅裏庭の湖にバステイルを浮かべた。この椅子は座るとロッキングチェアのように動き、心地よい。
下右・ポールチェア。抱かれるような安心感があり、瞑想ができる。
下中・馬の形をした椅子ポニー。モデルはアールニオのお孫さん。
下左・天井からつり下げたバブル。光が入ってくるように透明にしている。
アールニオの商品に関する問い合わせは、一六三ページに紹介したナゼロ／名古屋椅子工業を参照のこと。

FRPを使った巨匠エーロ・アールニオは、 全く独創的な境地を開く

現存するフィンランドのデザイナーとしては、おそらくこの人が最も国際的に知られているのではないだろうか。エーロ・アールニオは、一九六二年に発表したポールチェアで、若くして世界のトップデザイナーの仲間入りを果たす。その後、バステイル、ブルチェア、ポニーなど、独創的な作品を世に問うた。

「ポールチェアを作るきっかけとなったのは、モーターボート工場で、ボート先端に使っていた材料FRPに出会ったこと。強度があり、型があればどんな形でも作れるこの素材を見て、他の材料では作れないポールを思い付いた。当時としては、革命的な商品として受け止められていたようにです」。

